

東京江東ロータリークラブ

2024~2025年度 テーマ

ロータリーのマジック

RI 会長 ステファニー A. アーチック
地区ガバナー 石川 彌八郎

ROTARY PRIDE

～再発見・新発見～
クラブ会長 大澤 栄一

今日の卓話

東京臨海南ロータリークラブ在籍

市川慎次郎氏

続・『泥水すすってでも生き残れ！～売上の2億、
借金9億の暗黒時代からの復活～』

次回例会案内

クラブ創立記念例会
【卓話】伊藤三千男会員

No.25

第2931例会
2025年3月11日号

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

2/25 会員数 21名中 17名
出席率 85%
【訂正出席率】2/4 なし



会長・幹事報告

- 17日(月)第2580地区東分区IM(インターシティーミーティング)に参加いたしました。
- 21日(金)～在京(沖縄)RYLAセミナー【玉城青年の家】
☆大澤会長・小野綾子カウンセラー・米山奨学生カンウヒョン君と参加いたしました。
- 2日(日)米山期間終了式【池袋:自由学園明日館】☆カンウヒョン君ローターアクト年次大会【タワーホール船堀】
☆小野会員
- 4日(火)休会→13日に移動例会:東京ベイロータリークラブとの合同例会【ロイヤルパークホテル】
- 5日(水)クラブ会長エレクト研修セミナー(PETS)【損保会館】☆末次会長エレクト
- 8日(土)青少年交換学生 茶道稽古【今日庵東京道場】
☆エードラさん



<委員会報告・その他>

小野会員:RYLAセミナー報告

青年会議所江東支部:わんぱく相撲の協賛のおしらせ

次回例会は、3月13日(木)(夜例会)東京ベイロータリークラブ合同例会となっております。

※欠席される方は、例会前日の12時までに、事務局までお知らせください。

【配布物】週報 no.25・ロータリーの友 3月号

【回覧】なし

ニコニコボックス



大澤会長:RYLA(ライラ)行って来ました。すごかったです！
堀幹事:廣本様卓話楽しみにしています。
伊藤(三)君:大屋さんの東分区のゴルフ大会での優勝おめでとうございます。
鈴木君:廣本ガバナー補佐卓話楽しみにしています。
青木君:廣本ガバナー補佐よろしくおねがいます。
小嶋君:JCの皆さんいらっしやい。金澤ゆいさんいらっしやい。
小野君:ローターアクト委員会で石垣RCメークアップRYLAで沖縄へ行って参りました。姜君と大澤会長と3泊行って参りました。
河西君:廣本様卓話楽しみにしております。
末次君:廣本ガバナー補佐、本日は卓話楽しみにしています！
大島君:寒さもやっとひと段落、今日も宜しくお願いします。
伊藤(海)君:JCの皆さん宜しくお願いします。
熊川君:本日もよろしくおねがいます。
大屋君:廣本ガバナー補佐ようこそ！金澤ゆいさんようこそ！！
野村君:卓話楽しみにしております。

合計 65,000円
累計 1,271,000円

2025年3月のロータリーレポート (1ドル150円)

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場/東京都江東区東陽6-3-3 ホテルイースト21東京内 TEL:03(5683)5683 ●例会日/毎週火曜日12時30分~13時30分
●事務局/東京都江東区東陽6-3-3 ホテルイースト21東京内 TEL:03(5632)3777 FAX:03(5632)3737



廣本慶一ガバナー補佐

ガバナー補佐と
ロータリー希望の風について

希望の風とガバナー補佐の話をしようかと思えます。

石川年度のガバナー補佐 13 名はかなりまとまっています。今月初めの沖縄 IM には、東京から 6 名のガバナー補佐が参加しました。東京 11 人中 6 名が参加しました。先日の東分区の IM も素晴らしかったのですが、沖縄の IM はちょっとビックリします。まずこの話からさせていただきます。石川ガバナーは会場によって話を変えるのがとてもうまいと思えます。先日の東分区の IM であいさつされる時に登城するときの正装について話していましたが、その時刀を持っていました。実はあの刀、私が持ってきたのです。前の週のイベントで使用私が預かり、月曜日に持って行っただけです。あとで聞いたら、廣本が刀持ってくるから着物着て、登城するときの話をしようと思ったと言っていました。

話はそれでしたが、沖縄の IM など各クラブが出し物を用意する。というのです。数人でカラオケを歌うクラブもあれば、漫才をやるクラブもあります。最後はバンド演奏に石川ガバナーのハーモニカが加わって、会場の人のほとんどが踊っていました。

東京から参加したメンバーはみな、こんなの東京でお願いしたら、各クラブから暴動が起こるだろうな。と言っていました、確かに盛り上がりました。

ガバナー補佐として、ガバナー訪問には担当の 6 クラブについていきましたが、クラブごとに違う話をされるんです。職業奉仕と隔たりを取り除きご縁を大切に。という話はぶれません。

ガバナー補佐として忙しいとは思いますが、いろんな会議や会にでなければなりません。いつもの年より多くのお金も使っています。自分の仕事もちょっときついです。

後半は希望の風の話します。私は、希望の風に強い思いを持っています。ロータリー希望の風奨学金は、震災によって親御さんを亡くされたことを理由に大学、短大、専門学校への進学を決してあきらめないでほしい、という思いによって作られたものです。

東日本大震災によって両親または片親を亡くした岩手、宮城、福島 3 県の子供たちで、高校卒業後、大学・短大・専門学校に進学した学生が対象になります。

支援内容は在学中に、毎月 5 万円を継続して給付し、返済は求めません。震災直後に生まれた子が大学を卒業する 2033 年 3 月までの期限付きの奨学金となっています。

希望の風奨学金が設立された経緯は当時のガバナー会の思いがあります。当時のガバナー会の会長は当地区の上野パストガバナーでした。そのガバナー会で全国各地のガバナー会に集まった義援金をどのように使うかを議論した時に、東日本大震災によって、とても多くの子供たちが、両親または片親を亡くした。その子たちが高校を卒業して、大学に進学したいと思っても、親御さんがいないために生活が苦しく、そのことを言い出せない。高校卒業したら働かなければならない。と考える子がたくさんいるの

ではないか。そのような子供たちが進学をあきらめないように。という思いから設立された奨学金です。

実際に、「奨学金が無ければ就職するしかありませんでした。」「奨学金をもらえれば一生懸命勉強できます。」「奨学金をもらえるのなら進学したいと思います。」という学生の声が多く届いています。

東日本大震災発生から 14 年経過しようとしています。記憶も風化していますが、そのような中でも変わらぬ思いで支援を継続している。それが希望の風奨学金です。

学生さんは、学費以外の生活費は、希望の風奨学金によってだいぶ楽になり、勉強に集中できることでしょう。

毎月の仕送り額の平均が 10 万円くらいということなので、親御さんにとっても仕送りの負担がおおきく減ります。

子供が大学に進みたいと思っても、仕送りなどの生活費を考えると積極的に応援ができないと躊躇してしまうこともきっと多いと思いますが、希望の風奨学金を受けることで、進学を応援する気持ちになるようです。実際にそのような言葉も寄せられています。

希望の風奨学金は、震災遺児だけでなくその親御さんの役にも立っているのです。

そしてこの奨学金は、残りあと 8 年となりました。しかし奨学金を継続するためには資金が不足しています。現在の積み立て残高は 2 億 1 千万円あまり、あと 8 年継続するにはあと 2.5 ~ 3 億円が必要になると見込まれています。

もし資金が足りなくなったら、子供たちに渡す奨学金を減らさなければならぬかもしれません。どこかで打ち切ることになるかもしれません。しかしそのようなことは何としても避けなければなりません。ロータリークラブは将来ある子供たちに必ず進学をあきらめさせないという約束をしていると考えています。希望の風奨学金を減額するという事は、ロータリークラブは約束を守らない団体だ。信用できない嘘つき団体だ。ということになる。

先ほどお話しした立ち上げの経緯については、話すとき長くなりますが、2790 地区織田ガバナーから、当初集まった義援金をしっかりプールして災害復興期に行政が打ち出す復興支援制度の網で救うことのできない様々な困窮事業、例えば被災遺児の就学支援、進学支援、里親活動などをロータリーの活動として息長く続けることを訴え、その考えが元になり現在の奨学金につながっています。

立ち上げ時に紆余曲折があり、最初 10 地区で始まりました。本当は 34 地区すべてで行うはずだったのですが、その後プログラムも賛同する地区も増え、会員個人や家族の方々も支援の手を差し伸べていただいています。実は、当初の立ち上げにご尽力いただいた織田委員長は、2014 年 6 月にお亡くなりになっています。奨学金制度を立ち上げてから 2 年半。あっという間です。織田氏は発足当初事務局として奥様と希望の風の事務をしていただいたそうです。

その織田氏の言葉の一部をご紹介します。

私は、プログラムの窓口を担当している関係で、遺児や保護者と電話で話をする機会に恵まれています。その 90% は保護者からのものです。「子供を進学させること」は親の務めだと考えているからでしょう。奨学金の給付決定を心から感謝し、喜ぶ声はまず親から伝わってきます。

奨学金の存在を知った現在小学生や中学生を育てている保護者から「うちの子供たちが進学するときにも奨学金をいただけるのでしょうか」という問い合わせが結構あります。

「はい大丈夫です。ロータリーの会員の皆さんは今でも支援金を寄せていただいていますので、どうぞ安心してお子さんに進学を勧めてあげてください」と話します。と書かれています。

私たちは現在学んでいる学生だけでなく、8 年後に 22 歳を迎え大学を卒業する将来の子供たちが安心して進学できるように奨学金を継続する約束をしています。

寄付をご検討いただけるようでしたら、ぜひよろしく願いいたします。